

(続紙 1)

京都大学	博士（地域研究）	氏名	Weijie Zhao
論文題目	Modernism, Corporeality and Intersectionality: The Making of Human and Animal Relations in Japan (1860-1906) （アジアにおける近代化、身体性と交差性 —日本における人間と動物の関係性の構築（1860-1906）—）		
（論文内容の要旨） 本論文の問いの起点は、日本中央競馬協会（JRA）を引退した競争馬の受け入れを行っているNGOの日常業務への参与観察にある。例えば、職員たちの会話の中で、ある馬の「咬癖（こうへき）」をどのように「矯正すべきか」が繰り返し語られる。馬が「咬む」あるいは「咬むふり」をすることを含め、馬のふるまいには多種多様な意味がありうる。そのふるまいは、特定の馬と特定の人との間での、それまでの相互行為の蓄積を含む歴史的文脈の中で、個別具体的に理解されるべきものである。しかし職員と馬との関係は、馬の「本能的行動」やその「正しい矯正法」についての一連の仮定によって制限されているように見えた。より「よい馬」をつくりだす「トレーニング」をめぐる言説が、JRAを引退した馬と人間の関係にも影を落としているのである。では、この「トレーニング」言説は、いつどのようにして導入され、定着してきたのか。江戸末期から明治にかけての数十年間が、現代の日本における馬と人間の関係の形成にとって重大な役割を果たした。本論文は、その時期に、馬と人間の双方がそれに向けて規律＝訓練されるべきものとして導入された新たな身体性と、そこで構築される新たな権力作用についての記述・分析を行なう。 本論文は8章からなる。第1章では引退した競争馬を受け入れるNGOの日常業務において、「トレーニング」の言説がどのように表出するかを検討する。そこにおいて、どのように特定の知識が形成され、そして、その知識が人と個々の馬との関係を、どのように形成した規定するのかを記述・分析する。この検討を通して、「トレーニング」に関わる知識生産の歴史的起源へと遡る必要性、特に江戸末期、不平等条約締結の後に生じた変化を把握する必要性が明らかになる。第2章では、日本における西洋競馬の導入が、不平等条約によって引き起こされた政治的、社会的、経済的混乱とどのように絡み合っていたかを検証する。この章では、近代スポーツを植民地支配の圧力という大きな枠組みの中に位置づけることで、帝国の影響力の反映であると同時に道具としての競馬を探究する。第3章では、身体性（corporeality）の概念を用いて、人間と馬の肉体がどのように大きく変容していったかを分析し、西洋の観察者から「劣った」とみなされていた日本人と馬が、西洋の近代的な理想に沿うために、いかに厳しい監視と改革にさらされたかを示す。この身体性の再構成は近代スポーツの礎となり、人馬の身体を試し、比較し、鍛える場として機能した。第4章では、1860年			

代後半から1870年代前半にかけて、身体規律のイデオロギーを導入する上で、外国人の居留地、特にイギリス兵が果たした役割を探る。居留地におけるスポーツの変遷をたどることで、軍隊が組織した最初のイベントから、最終的には日本人個人も参加するようになり、制度化したスポーツが、いかに日本人のアイデンティティを再構築するようになったかを明らかにする。第5章では、競馬の近代化において、体系化された登録と選考のプロセスが果たした変革的な役割について掘り下げていく。外国人居留地が導入した綿密な規制システムに根ざしたこれらの慣行は、競馬をレクリエーションから体系的なスポーツへと進化させるのに役立った。馬の血統と成績指標を記録するスタッドブック（血統台帳）の導入は、西洋の科学的アプローチを反映し、日本の伝統的な継承概念とは異なるものだった。第6章では、1880年代の条約改正を背景に、日本の近代化をアピールするための見世物として、スポーツ、競馬、女性の公的役割が戦略的に利用されたことを調査する。第7章では、1890年の第三回内国勸業博覧会や国民体育大会のような行事に焦点を当て、1890年代後半に達成された「進歩」を明らかにする。第8章では、1900年代初頭の貴族競馬、軍備、馬の繁殖の変容の交差点を探る。日清戦争（1894年～1895年）と日露戦争（1904年～1905年）における馬術部門の失敗が、1906年の第一次馬政計画のきっかけとなる。20世紀初頭までに、在来馬の品種はほぼ根絶され、軍事兵站において西洋馬が支配的になる道が開かれた。

植民地主義、近代化、変容する身体認識の交錯を検証することで、本論文は、日本が帝国主義大国へと変貌を遂げる上で競馬が果たした重要な役割を明らかにする。本論文は、植民地主義の遺産、身体性の変容、近代化が社会構造や人間と動物の関係性を与えた重大な影響に関する、より広範な議論に貢献するものである。